

# グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド Aコース(為替ヘッジあり)

追加型投信／内外／債券

## 交付運用報告書

第4期(決算日2025年9月16日)

作成対象期間(2024年9月18日～2025年9月16日)

第4期末(2025年9月16日)	
基準価額	9,355円
純資産総額	500百万円
第4期	
騰落率	2.0%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、外国投資法人であるノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジクラスの円建ての外国投資証券および野村マネーインベストメント マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界の様々な債券および債券関連証券等に実質的に投資を行ない、インカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 野村アセットマネジメント株式会社

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

●サポートダイヤル

**0120-753104** <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2024年9月18日～2025年9月16日)



期 首：9,175円

期 末：9,355円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率： 2.0% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首 (2024年9月17日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の9,175円から期末には9,355円となりました。

当ファンドの主な基準価額変動要因は以下の通りです。

- ・実質的に投資している債券関連資産からのキャピタルゲイン (またはロス) (価格変動損益)
- ・実質的に投資している債券関連資産からのインカムゲイン (利子収入)
- ・為替取引によるコスト (金利差相当分の費用) またはプレミアム (金利差相当分の収益)

新興国を中心とした国債の保有がプラスに働きました。米国による関税の賦課により景気減速への懸念が強まったことで、多くの国で政策金利が引き下げられ、保有していた新興国の債券利回りが低下 (価格は上昇) しました。また社債のスプレッド (利回り格差) が縮小したことから、社債の保有がプラスに寄与しました。

1 万口当たりの費用明細

(2024年9月18日～2025年9月16日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 98	% 1.075	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(25)	(0.274)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(70)	(0.768)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	( 3)	(0.033)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	98	1.078	
期中の平均基準価額は、9,070円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

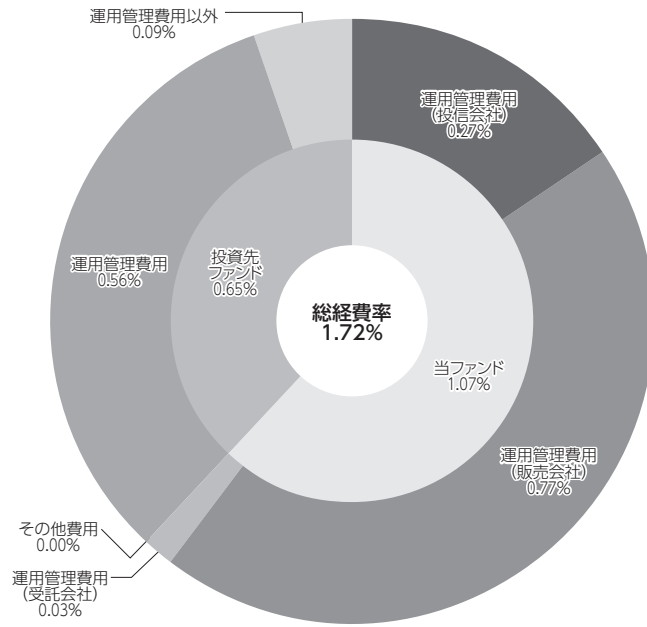
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1 万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3 位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.72%です。



(単位：%)

総経費率 (①+②+③)	1.72
①当ファンドの費用の比率	1.07
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.56
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.09

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。  
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。  
(注) 各比率は、年率換算した値です。  
(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券等（マザーファンドを除く。）です。  
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。  
(注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。  
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。  
(注) 投資先ファンドの純資産総額等によっては、投資先ファンドの運用管理費用以外の比率が高まる場合があります。  
(注) 投資先ファンドの費用は、交付運用報告書作成時点において、委託会社が知りうる情報をもとに作成しています。  
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2020年9月15日～2025年9月16日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2022年3月14日です。

	2022年3月14日 設定日	2022年9月15日 決算日	2023年9月15日 決算日	2024年9月17日 決算日	2025年9月16日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,066	8,749	9,175	9,355
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 9.3	△ 3.5	4.9	2.0
純資産総額 (百万円)	250	755	1,098	591	500

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年9月15日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

**投資環境**

(2024年9月18日～2025年9月16日)

米国では2024年においては堅調な個人消費や雇用の伸びが見られたものの、2025年に入ると徐々に景況感が悪化し、雇用の伸びについても減速しました。FRB（米連邦準備制度理事会）は、年明け以降は政策金利を据え置いたものの、パウエル議長は8月下旬のジャクソンホール会議で将来の利下げを示唆しました。ECB（欧州中央銀行）など他の先進国の中央銀行は、インフレの落ち着きや景気の減速を受けて段階的に政策金利を引き下げました。主要国の債券利回りは中央銀行による金融緩和を受けて短期債は低下したものの、長期債については財政支出の拡大などから上昇（価格は下落）しました。

為替市場では、米国の関税政策による景気への影響が不透明なことから日銀の利上げが遅れるとの思惑を受けて円が米ドルに対して下落しました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2024年9月18日～2025年9月16日)

**[グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド Aコース]**

〔ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス〕の円建ての外国投資証券および円建ての国内籍の投資信託である〔野村マネーインベストメントマザーファンド〕受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする〔ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス〕の円建ての外国投資証券への投資比率を概ね高位に維持しました。

**[ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス]**

債券組入比率は、概ね高位を維持しました。同ポートフォリオにおける債券種別の投資配分は、国債、金融債などの比率が高めとなりました。またデリバティブを用いてリスク性資産や金利ポジションを一部ヘッジしました。組入外貨建資産については、米ドル建て以外の通貨エクスポージャーを保有している部分を含め、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行ないました。

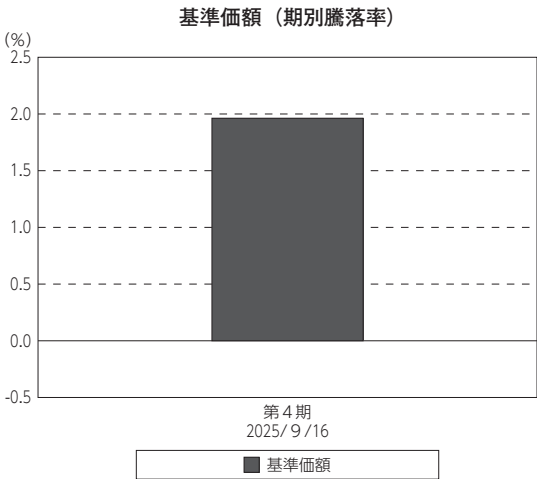
**[野村マネーインベストメント マザーファンド]**

残存1年以内の公社債等（現先取引も含む）やコール・ローン等で運用を行なうことで、安定した収益と流動性の確保を図りました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2024年9月18日～2025年9月16日)

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。  
グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2024年9月18日～2025年9月16日)

当期の収益分配金は、配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第 4 期
	2024年9月18日～2025年9月16日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	952

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。  
(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### [グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド Aコース]

〔ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス〕の円建ての外国投資証券および円建ての国内籍の投資信託である〔野村マネーインベストメントマザーファンド〕受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする〔ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス〕の円建ての外国投資証券への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

### [ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス]

世界の債券関連資産を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行ないます。当ファンドでは、中長期の市場見通しをベースとしながらも、短期のキャピタルゲインも狙うことで、債券市場からの安定した収益を獲得する運用を行ないます。また、債券関連資産の価格変動性が高まると判断した場合には、デリバティブによる機動的なヘッジを導入して、運用効率を高めることを狙います。組入外貨建資産については、米ドル建て以外の通貨エクスポージャーを保有している部分を含め、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行ないます。

### [野村マネーインベストメント マザーファンド]

残存1年以内の公社債等（現先取引も含む）やコール・ローン等で運用を行なうことで、安定した収益と流動性の確保を図ります。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願いいたします。



お知らせ

「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正に伴い、運用報告書の電子交付に関する条文を  
変更する所要の約款変更を行ないました。  
＜変更適用日：2025年4月1日＞

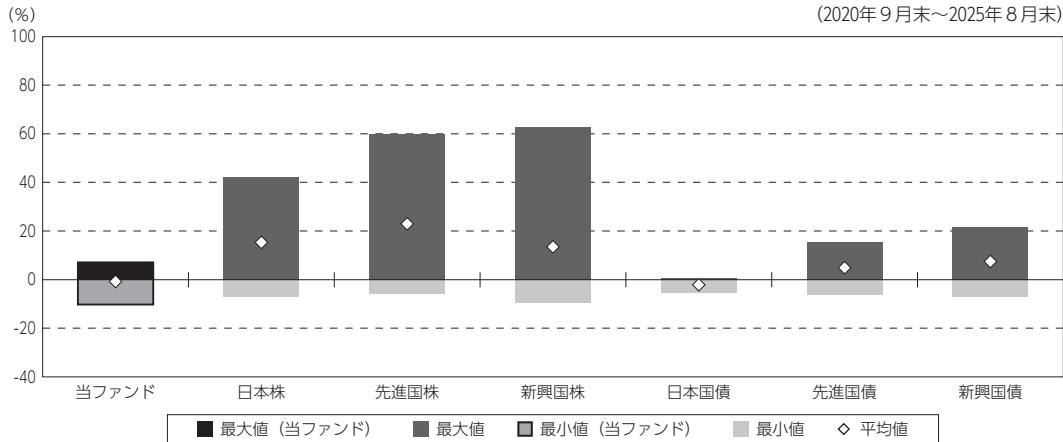
当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／債券	
信 託 期 間	2022年3月14日から2031年9月16日までです。	
運 用 方 針	外国投資法人であるノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラスの円建ての外国投資証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネーインベストメント マザーファンド受益証券への投資を通じて、債券（新興国を含む世界各国の固定利付および変動利付の債券（国債、政府機関債、社債等。現地通貨建てを含みます。））および債券関連証券等を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。 ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラスの円建ての外国投資証券および野村マネーインベストメント マザーファンド受益証券への投資比率は、通常の状況においては、ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラスの円建ての外国投資証券への投資を中心としますが、各証券への投資比率には特に制限は設けず、各証券の収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。	
主要投資対象	グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド Aコース	外国投資法人であるノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラスの円建ての外国投資証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネーインベストメント マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス	債券（新興国を含む世界各国の固定利付および変動利付の債券（国債、政府機関債、社債等。現地通貨建てを含みます。））および債券関連証券等を主要投資対象とします。
	野村マネーインベストメント マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	外国投資法人であるノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラスの円建ての外国投資証券および野村マネーインベストメント マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界の様々な債券および債券関連証券等に実質的に投資を行ない、インカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、利子・配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について  
店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響をうけ、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：％)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	7.2	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値	△ 10.2	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 7.0
平均値	△ 0.8	15.3	22.9	13.5	△ 2.2	4.8	7.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2020年9月から2025年8月の5年間（当ファンドは2023年3月から2025年8月）の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

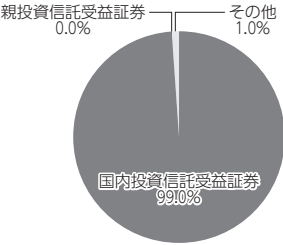
組入資産の内容

(2025年9月16日現在)

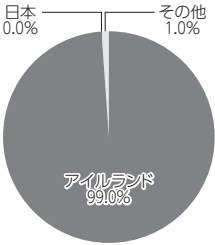
○組入上位ファンド

銘 柄 名	第 4 期 末
	%
ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス	99.0
野村マネーインベストメント マザーファンド	0.0
組入銘柄数	2銘柄

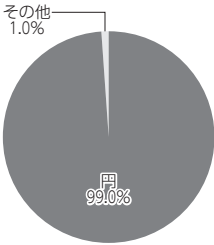
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。  
(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。  
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。  
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。  
(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項 目	第 4 期 末
	2025年9月16日
純資産総額	500,582,148円
受益権総口数	535,110,071口
1万口当たり基準価額	9,355円

(注) 期中における追加設定元本額は3,509,657円、同解約元本額は112,950,207円です。

組入上位ファンドの概要

ノムラ・ファンズ・アイルランドーグローバル・ダイナミック・ボンド・ファンドーRD JPYヘッジドクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。  
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】

【1万口当たりの費用明細】

(2024年1月1日～2024年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。



(注) 分配金を分配時に再投資したものととして計算しております。

【組入上位10銘柄】

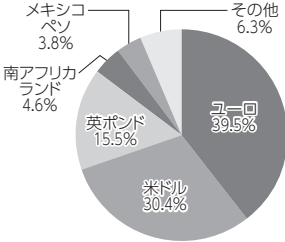
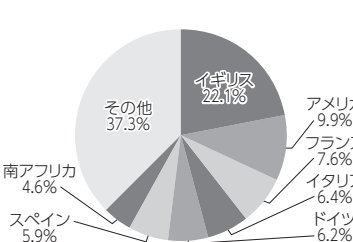
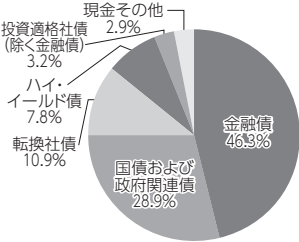
(2024年12月31日現在)

	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1	US TREAS NTS 5% 08/31/25	国債	米ドル	アメリカ	4.5%
2	MEX BONOS DES 8% 07/31/53/MXN/	国債	メキシコペソ	メキシコ	2.9
3	UNITED KINGDO 4% 10/22/31/GBP/	国債	英ポンド	イギリス	2.3
4	US TREAS NTS 4.125% 01/31/25	国債	米ドル	アメリカ	2.1
5	REPUBLIC 0 8.75% 01/31/44/ZAR/	国債	南アフリカランド	南アフリカ	2.1
6	BULGARIA 4.25% 09/05/44/EUR/	国債	ユーロ	ブルガリア	1.9
7	REPUBLIC 0 8.75% 02/28/48/ZAR/	国債	南アフリカランド	南アフリカ	1.5
8	ROMANIA 5.625% 05/30/37/EUR/	国債	ユーロ	ルーマニア	1.3
9	BARCLAYS PLC V/R /PERP//GBP/	金融債	英ポンド	イギリス	1.3
10	ROMANIA 6% 09/24/44/EUR/	国債	ユーロ	ルーマニア	1.1
組入銘柄数		205銘柄			

【資産別配分】

【国別配分】

【通貨別配分】



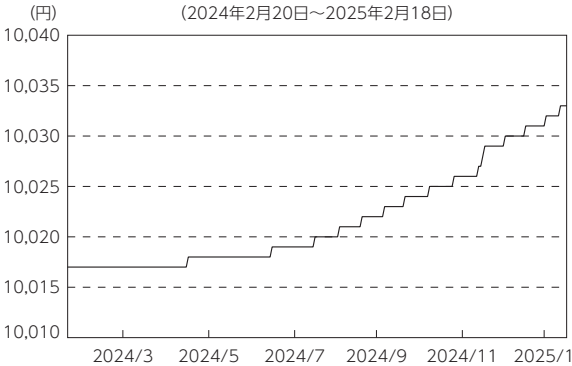
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。  
(注) 国（地域）および国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。  
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。  
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。  
(注) 配分比率は運用チームによるデータ区分定義、エクスポージャー調整に基づいて算出しております。

野村マネーインベストメント マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2024年2月20日～2025年2月18日)



【1万口当たりの費用明細】

(2024年2月20日～2025年2月18日)

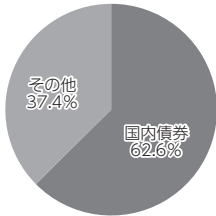
該当事項はございません。

【組入上位 10 銘柄】

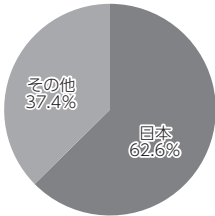
(2025年2月18日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	国庫短期証券 第1214回	国債	円	日本	48.1
2	国庫短期証券 第1269回	国債	円	日本	14.4
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数		2 銘柄			

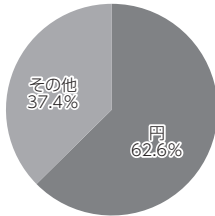
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国（地域）および国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

配当込みTOPIX（「東証株価指数（TOPIX）（配当込み）」といいます。）の指数値及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標準又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標準又は商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P Xにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

### ○MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）についてここでは提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてののみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPMやその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国のJ.P. Morgan Securities LLC（ここでは「JPMSLLC」と呼びます）（「指数スポンサー」）は、指数に関する証券、金融商品または取引（ここでは「プロダクト」と呼びます）についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLCはNASDAQ, NYSE, SIPCの会員です。JPMorganはJP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

（出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他）